



人・夢・技術グループ株式会社

2025 年 9 月期 第 2 四半期（中間期）決算説明会

2025 年 5 月 19 日

イベント概要

[企業名]	人・夢・技術グループ株式会社		
[企業 ID]	9248		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2025 年 9 月期 中間決算説明会		
[決算期]	2025 年度 第 2 四半期通期		
[日程]	2025 年 5 月 19 日(月)		
[ページ数]	44		
[時間]	17:00 – 18:00 (合計 : 60 分、登壇 : 45 分、質疑応答 : 15 分)		
[開催場所]	103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目 20 番 4 号 インターネット配信		
[出席人数]	34 名		
[登壇者]	4 名		
	代表取締役社長	永治 泰司 (以下、永治)	
	代表取締役副社長	野本 昌弘 (以下、野本)	
	取締役副社長	野村 英雄 (以下、野村)	
	常務取締役	塩釜 浩之 (以下、塩釜)	

登壇

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

司会：皆様、大変お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただ今より人・夢・技術グループ株式会社、2025 年 9 月期第 2 四半期決算説明会を開催いたします。本日はご多忙の中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

それでは、本日の会社側出席者をご紹介します。皆様より向かって左側より、代表取締役社長、永治泰司でございます。続きまして、代表取締役副社長、野本昌弘でございます。取締役副社長、野村英雄でございます。常務取締役、塩釜浩之でございます。

本日の進行でございますが、はじめに社長の永治から、続いて塩釜、最後に野村からのご説明の後に、質疑応答とさせていただきます。

質疑応答につきましては、会場でご参加の方は挙手いただき、司会者より指名させていただきます。Zoomでご参加の方はコントロールパネルの Q&A 機能より、テキスト形式にてご入力ください。頂戴したご質問を読み上げ、ご回答させていただきます。お時間の関係上、全てのご質問にお答えできない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

本日の説明資料につきましては、会場参加の方にはお手元に説明会資料、決算短信などのほか、アンケート用紙をお配りしております。Zoom 参加の方には、画面共有する資料、または当社ホームページの決算説明会ページに掲載した資料をご覧くださいこともできます。

ウェビナー終了後はアンケート画面に移ります。アンケートは今後の IR 活動の参考とさせていただきますので、ぜひともご協力のほどよろしくお願いいたします。Zoom 参加の方におかれましてはチャット機能は使えませんので、お困りごとがございましたら Q&A 機能にてお知らせください。本日の説明会の終了予定時刻は、18 時となっております。

それでは、説明に移らせていただきます。永治社長、よろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



～ご挨拶～ 代表取締役社長 永治泰司

2025年9月期第2四半期(中間期)の当社グループ概況

■ 上半期の業績

- ・ 受注は、道路関連業務や地盤調査をはじめとした基幹事業が堅調に推移
- ・ 売上は、前期からの好調な受注を受けて順調に推移

■ 業務トピックス

- ・ 防災・減災業務をはじめとする、国土強靱化に関わる業務を継続的に対応
- ・ 新規事業において、空飛ぶクルマ(愛知県、和歌山県、大阪府等)および量子コンピュータ(サーバーレンタル、アプリ開発)などの事業を推進
- ・ デジタル田園都市国家構想関連事業は、スマートシティ事業部において推進。複数の省庁や都道府県から受注



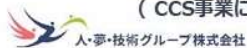
左「複合発酵技術」を活用した水循環システム 右 CCS事業に関わる地質調査

■ 信頼性向上委員会の発足と進捗状況報告

- ・ 不適切会計再発防止策5項目・16施策の多くが運用フェーズに入り、社内コミュニケーションと社員教育を強化する契機とし、信頼回復と企業価値向上へ繋げる

■ サステナビリティ経営の推進

- ・ 人的資本の最大化に向けて、DE&I推進と健康経営に向けた取り組みが評価され、女性の健康経営®アワード2025で『推進賞』を受賞
- ・ 英国のNGOであるCDPから2024年の「気候変動」分野において、昨年に引き続き、「自社の環境リスクや影響について把握し行動している」との評価を示す「B-」スコアを獲得、サステナビリティ委員会にて取り組みのPDCAを実施
- ・ 事業を通して『社会全体へのカーボンニュートラル』への貢献
(CCS事業に関わる地質調査、「複合発酵技術」を活用した水循環システムの都心への導入、小水力発電事業等)



2

永治：それでは、皆さん、こんにちは。今日は、この時期にしては少し気温が高いです。ついこの間まで寒い寒いと思っていたら、ここのところ急に暑くなって、春がどこかへ飛んでいってしまったような感じですが、これも異常気象ということになるのかなと思います。

そういった中で、先日の山火事がありました。今のところはそんなに大きな災害はないですけど、最近の状況から、これから豪雨災害も懸念されるところではあります。

そういったことに私ども人・夢・技術グループは、今期も特に国土強靱化というキーワードの下、色々な災害対応を行ってまいりました。

その結果も踏まえまして上半期の業績を申し上げますと、基幹事業は堅調に推移しております。そして前期も受注が好調でしたが、今期は受注も売上も昨年を上回っており比較的順調に推移しているといっているかと思います。また、詳しくは後ほど担当の者から説明させていただきます。

業務トピックスについては、今申し上げましたように、国土強靱化にかかわる業務は、われわれの基幹事業の大きな柱の一つですから、防災・減災に向けて、いろいろ対応させていただいているところがございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



それから新事業という切り口で申し上げますと、既に何度もご紹介させていただいていますけれども、空飛ぶクルマの事業。ここでは愛知県、和歌山県と書いてございますけれども、今期になってからおおむね7件ぐらい受注しておりますが、まだ実証実験という段階でございます。この事業は機体の問題がございまして、われわれ機体をつくっているわけではなく、機体を使ってということになりますけれども、日本国内ではまだ型式認証を取れていない状況にあり、実運用には、もう少し時間がかかるかなと思っています。けれども、これは一つの新たな交通機関として期待されているところが大でございまして、各自治体からの引き合いもたくさんございますので、鋭意対応していきたいと思っております。

それから量子コンピュータという分野になります。量子というと一般の方にはなかなか理解しにくい部分がありますが、以前は、いわゆるスーパーコンピュータを使うと、色々なことができる時代でありました。それが今の時代には、その性能をはるかに上回るスマホを皆さん持っています。ですから、量子という世界も近いうちに皆が持つようになっていくだろうと考えております。事実いろんな案件があります。例えば市町村、市の発展は量子技術を使ったものになるだろうと考えておられる自治体がございます。そういったところから多数引き合いをいただいています、現在いわゆる量子教育、あるいはデータセンター事業を含め、おおむね10数件の受注がある状況でございます。

それからデジタル田園都市国家構想関連につきましては、数年前から更別村からスタートして順調に事業を伸ばしています。例えば自動物流、自動配送だとか、自動運転だとかいうことも行っていますし、プラットフォームとしての都市内流通する通貨を使える仕組みの構築を目指しています。キャッシュレスで病院も行ければ、買い物もできるような時代に今なりつつありますので、そこに取り組んでおります。これからの世の中は、各市町村よりキャッシュレス化、電子化されていくという認識の下、私どもに20数件の仕事をいただいているところでございます。

そういった業務トピックスについて、後ほどまたご説明させていただきますが、こういった色々な取り組みを行っているところであります。

昨年度発生しました不適切会計につきましても、第三者委員会の提言を受けまして、全ての項目に対してその対応策を決め、現在、実施しているところでございます。

そしてサステナビリティ経営。これは先ほどの災害などにもつながるものですが、災害を起こさないことが一番の重要な課題でございますから、いわゆるカーボンゼロという社会をつくっていくのも、インフラビジネスに関わっている我々としては、大変重要な課題と認識しております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ということで、気候変動分野で我々自身のリスクを把握し、カーボンゼロに向けての取り組みを強化しているところでございます。また、我々自身だけでなく事業を通じて貢献すべく、小水力発電をはじめとする、太陽光発電など、いわゆるカーボンフリーのエネルギーを社会に供給していくことにも取り組んでいるところでございます。

そういったいろんな事業を展開しながら、今期、第4期になりますけれども、前半取り組んでまいりました。いずれも大変好評を得ておりまして、まだ事業として十分になっていない部分もございますけれども、事業になっているものも出てきていることから、われわれもそこに力を入れ、かつ基幹事業として、先ほど申しましたような安全安心な国土づくりに進んでいきたいと思っておりますので、ぜひ皆様、ご理解、ご協力いただければと思います。

ということで、冒頭の私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



連結損益計算書サマリー

受注高、売上、利益ともに通期計画通りに進捗

	2024年9月期 中間実績	2025年9月期 中間実績	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率	(百万円)	
					通期予想	対前期 増減率
受注高	18,715	19,219	503	2.7%	45,500	2.8%
売上高	21,706	23,818	2,112	9.7%	43,000	8.0%
営業利益	2,674	2,434	△239	△8.9%	2,200	22.9%
経常利益	2,694	2,462	△232	△8.6%	2,180	24.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,659	1,563	△95	△5.8%	1,150	-

■受注高

国土交通省、官公庁受注を軸に堅調、前年同期を上回って推移

■売上高

受注高の堅調な進捗により、前年同期を大きく上回って推移

■営業利益、経常利益

売上高は増加したものの、外注費の増加や人的・組織体制強化投資により減少



4

塩釜：では続きまして、私、塩釜のほうから、決算ハイライトと25年9月期の業績予想などを報告いたします。

まず、損益計算書サマリーですが、25年9月期の中間決算期の2Q終わりました、受注高が192億円ということでございます。これは前年同期に比べてプラス5億円、2.7%の増でございました。売上につきましては238億1,800万円で、同じく前期に比べて21億、9.7%、約10%上乗せしております。

営業利益につきましては、少しマイナス傾向になるのですが、24億3,400万円で、前期比マイナス約4億ということでございます。経常利益は24.6億円、最終当期純利益が15.6億ということで、営業利益から下がマイナスになっております。ここは、また後ほど説明いたします。今、第2中計において将来に向けた投資している関係で、この数字がマイナスとなっております。

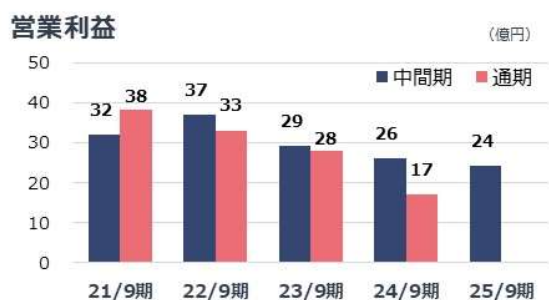
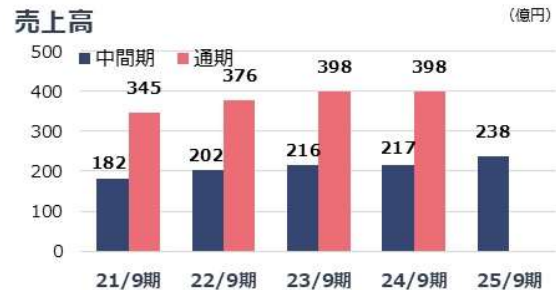
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



連結業績推移 ～受注高・売上高・利益～

受注高、売上高は堅調に増加、営業利益は先行投資により減少



【ご参考】2021年9月期実績は、株式会社長大として公表した数値

5

その次に過去5年間の推移をご説明させていただきます。ご覧のとおり、まず受注高と売上高につきましては順調に伸ばしてきております。ただし営業利益が第1中計（グラフでは21年9月、22年9月が第1中計）のあと、第2中計（23年9月以降）では、将来に向けた足元の投資をしっかりと行っていかうということで、営業利益がマイナス基調でございます。ただしそれらを除いた、私たちは基礎営業利益という言い方をしている数字ですと、決して下がっているわけではございません。これも後ほど説明します。

最終当期純利益はグラフのとおりでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



営業利益増減要因の分析

外注費の増加、人的・組織体制強化投資により、営業利益は対前年比△8.9%となる



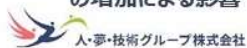
■営業利益増減要因

➤ 増加要因

- ・売上高の増加、戦略的事業投資(研究開発費を含めた新事業投資等)の減少による影響

➤ 減少要因

- ・外注費の増加(技術現場における業務量増加と業務の平準化、また一部大型案件受注等に伴うもの)による影響
- ・人的・組織体制強化投資(IT/DX化の更なる推進、採用強化ならびに政府の要請を鑑みた給与水準の3%引き上げ等)の増加による影響



6

こちらは、営業利益の変動要因の分析でございます。これは、まず前期の同時期、一番左、26億7,000をスタートとしまして、下の増加要因にもコメントしておりますが、先ほどのとおり売上の増加に対する営業利益相当分が6億9,000万円でございます。

それに対して利益率の変動によるマイナス9億が一つのポイントでもあります。これは下の減少要因にコメントがあるように、外注費の増加、技術現場における業務量増加と業務の平準化、また一部大型受注案件に伴う影響によるものです。そしてその隣のマイナス1.8億、これは人的・組織体制強化投資という言い方をしておりますが、政府要請に応じた、3%の社員の賃上げも含めたものがございます。

第1中計は売上がプラス30%となり、3年間で非常に伸びました。営業利益も10%、3年間で伸びてきました。その一方で業務量、業務過多になって、社員の負荷が非常に高くなっていたのも事実としてあります。

長期計画を見たときに、やはり私たちは社員が資本ですので、この第2中計では将来に向けて投資を行いながら、働き方改革と適正な利益のバランスを鑑みまして、できるだけ社員の給与アップですとか、業務負荷低減に向けた外注費の増加などに投じた結果、一時的に営業利益が下がりま

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



した。結果的に利益率がマイナス基調になることはあることも想定内のマネジメントでございます。

最後は戦略的事業投資。これは投資額が前年同時期比で若干マイナスになった分のプラス 9,000 万円とその他 6,000 万円を含めて、今期中間が 24 億 3,400 万円ということでございます。

連結業績推移 ～利益率～

売上高は伸長しているものの、積極的な人材採用、給与水準の引き上げなどにより
営業利益率、粗利益ともに減少

営業利益率



売上総利益率



【ご参考】2021年9月期実績は、株式会社長大として公表した数値



7

ここでは連結の業績推移ということで、まずは営業利益率です。先ほどのとおり下がっておりますが、要因はご説明したとおりでございます。

売上総利益、粗利率もこの第2中計で若干下げております。それも先ほどの要因によるものでございます。

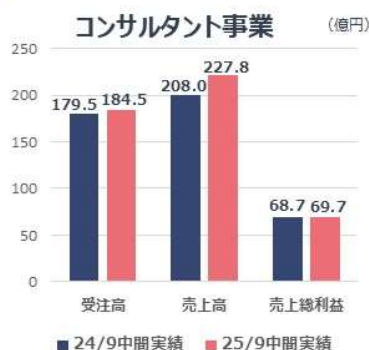
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



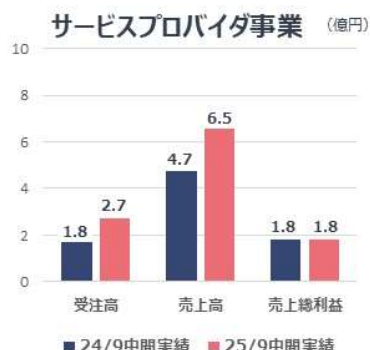
セグメント別の実績

主力のコンサルタント事業は、好調な受注環境により下期での増収を見込む



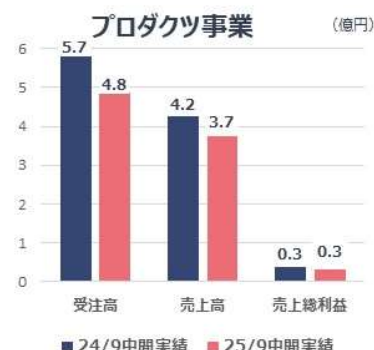
■受注高、売上高は増加

- ・受注高及び売上高の増加は、主に中央省庁からの発注増加によるもの
- ・売上総利益は、前期と同水準で推移



■受注高、売上高は増加

- ・受注高及び売上高の増加は、主に海外のエネルギー関連事業の推進によるもの
- ・売上高は大きく増加したものの、原価率の上昇により売上総利益は前期と同水準で推移



■売上総利益は前期並みに推移

- ・受注高、売上高は減少したものの、売上総利益は前期と同水準で推移
- ・コンクリート用夜間反射塗料、バイオグリーンシールドなどのオリジナル商品を拡充し、着実な展開を図る



8

これはセグメント別の実績で、それぞれ受注、売上、粗利益になります。まずコンサルタント事業。これは冒頭のとおり、順調に推移しております。比較は前期の同時期比で、受注、売上とも、プラス基調ですけれども、先ほどのとおり売上総利益、粗利益はほぼ前期並みとなっております。

サービスプロバイダ事業。ここは国内、海外で独立採算事業に向けて色んなことをやっており、受注と売上は徐々に伸ばしてきております。ただし売上総利益、粗利はほぼ横ばいでございます。

プロダクツ事業。これはコメントに書いてありますコンクリート用夜間の反射塗料ですとか、建設関連の資材とかを販売している事業でございます。それほど売上等は大きくないのですが、ここは年間通じてでこぼこがあります。今期は前期に比べて若干減っておりますが、ここで粗利益はほぼ同額をキープしています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



連結貸借対照表の概要

(百万円)

<主な項目>	2024年9月 期実績	2025年9月 期中間実績	増減額	主な増減内容
資産合計	37,317	47,215	9,898	
流動資産	25,515	35,631	10,116	流動資産 ・ 一過性の運転資金増加に伴う現金および預金の増加による影響 ・ 足元の受注増に伴う完成業務未収入金および契約資産の増加による影響
固定資産	11,802	11,583	▲218	固定資産 ・ 繰延税金資産およびその他資産の減少による影響
負債合計	17,164	26,325	9,161	
流動負債	11,552	19,164	7,611	流動負債 ・ 一過性の運転資金増加に伴う短期借入金の増加による影響
固定負債	5,612	7,161	1,549	固定負債 ・ 社債発行や長期の追加借入による増加
純資産合計	20,152	20,889	737	
株主資本	19,776	20,432	656	・ 利益剰余金が増加



9

次にバランスシートを見ていきますと、資産合計で、前期の中間期と今期の中間期を比較しております。まずこの9月期の中間期、資産合計で472億円ということで、前期に比べてプラス98億円増えております。

右にコメントしておりますが、大きなところで一過性の運転資金増加に伴う現金、および預金の増加による影響があります。運転資金として、2Q末までに一時的に資金調達を行ったこと。それから二つ目、これも今回顕著で、足元の受注増に伴う完成業務未収入金と契約資産が増えたところで98億円増えました。

それから負債のところです。これも同じく前期に比べて90億円ほど増えました。上の資産の資金調達と同じです。一過性の運転資金。それと今期、初めてESG型の私募債を発行したことによる社債発行、長期の追加借入からの増加がありましたということです。

純資産は、利益剰余金が増加しましたということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



連結キャッシュ・フロー表の概要

(百万円)

＜主な項目＞	2024年9月期 中間実績	2025年9月期 中間実績	主な要因
営業キャッシュ・フロー	△4,929	△5,073	売上債権の増加などによる影響
税金等調整前当期純利益	2,694	2,462	
売上債権の増減額（△は増加）	△7,984	△7,256	
未成業務支出金の増減額（△は増加）	△138	△112	
未成業務受入金の増減額（△は減少）	293	△172	
未払消費税等の増減額（△は減少）	140	64	
法人税等の支払額	△308	△417	
投資キャッシュ・フロー	△432	△369	オフィス移転にかかる有形固定資産の取得および貸付による支出の影響
有形固定資産の取得による支出	△69	△231	
投資有価証券の取得による支出	△101	△28	
貸付けによる支出	△44	△275	
財務キャッシュ・フロー	8,398	8,103	主に、運転資金増加に伴う短期借入金の一時的な増加および社債発行による影響
短期借入れによる収入、支出	9,300	7,640	
長期借入れによる収入、支出	△351	531	
期末現金および現金同等物残高	10,219	10,850	



10

次に、キャッシュ・フローです。営業キャッシュ・フローにつきましては期首からマイナス 50 億円でございます。これは上から二つ目の、売上債権の増加によるマイナス 72 億円、ここは売上増に伴う売上債権が増えたことによるものです。

それからその下の投資キャッシュ・フロー、これがマイナス 3.7 億円です。オフィス移転に係る有形固定資産の取得などがあります。一番下が財務キャッシュ・フローで、これは先ほどの BS で説明いたしました運転資金増加に伴う、短期借入金の一時的な増加。あとは社債発行などがあって、財務キャッシュ・フローも 80 億円ということでございます。

差し引きして、ここでは 108 億円という数値となっております。

サポート

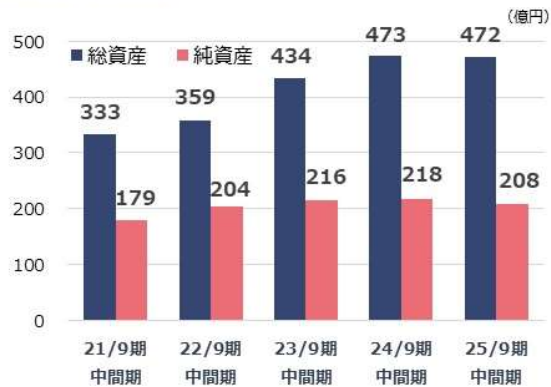
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



連結財務状況推移 ～自己資本比率～

堅調な売上の増加、利益剰余金の計上により、総資産は同水準で推移

総資産・純資産



自己資本比率



■総資産、純資産

・利益剰余金の減少に伴い純資産は減少

■自己資本比率

・一過性の運転資金増加に伴う短期借入金の増加および社債の発行などにより自己資本比率は減少



11

次が、自己資本の状況ということでございます。左が総資産、純資産、右が自己資本比率ですが、この第2中計は先ほど冒頭の説明のように少し下がってきております。中間期では50%を切っておりますが、9月決算期では今のところ50%を超えているところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



連結業績予想

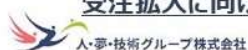
第2四半期(中間期)では、通期計画通りに進捗

(百万円)

	2024年9月期 通期実績	2025年9月期 通期予想	対前期 増減額	2025年9月期 中間実績	対前年同期 増減率
受注高	44,270	45,500	1,229	19,219	2.7%
売上高	39,814	43,000	3,185	23,818	9.7%
営業利益	1,790	2,200	409	2,434	△8.9%
経常利益	1,756	2,180	423	2,462	△8.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益又は損失(△)	△190	1,150	1,340	1,563	△5.8%

■受注高、売上高、営業利益について

- ・受注高については、国土交通省・官公庁関連業務を軸に、引き続き堅調に推移する見込み
- ・売上高については、第2四半期(中間期)時点で前年同期を上回る進捗であり、また足元の堅調な受注を受けて、引き続き堅調に推移する見込み
- ・営業利益については、技術現場における業務量の増加や一部大型案件の受注による外注費の増加、また、人的・組織体制の強化等の実施により進捗に遅れがあるものの、足元の売上は前年同期を上回っており、受注拡大に向けたIT/DX化および人的投資を着実に実施しながら、通期計画を目指す



12

最後に業績予想でございます。2Q 時点では受注、それから売上が前期に比べてプラスで進行していることもありまして、今のところ通期は計画どおりを想定しておるということでございます。受注で 455 億円、売上で 430 億円、営業利益 22 億円、経常利益で 21.8 億円、最終で 11.5 億円でございます。

今後、引き続き受注、売上高を増加させながら、利益確保に努めてまいりたいと思っております。

以上が決算ハイライトで、ここではもう一つ、企業価値向上に向けた取り組みということで、第2中計中の、特にこの半期中で行ったものについて、簡単にご紹介いたします。

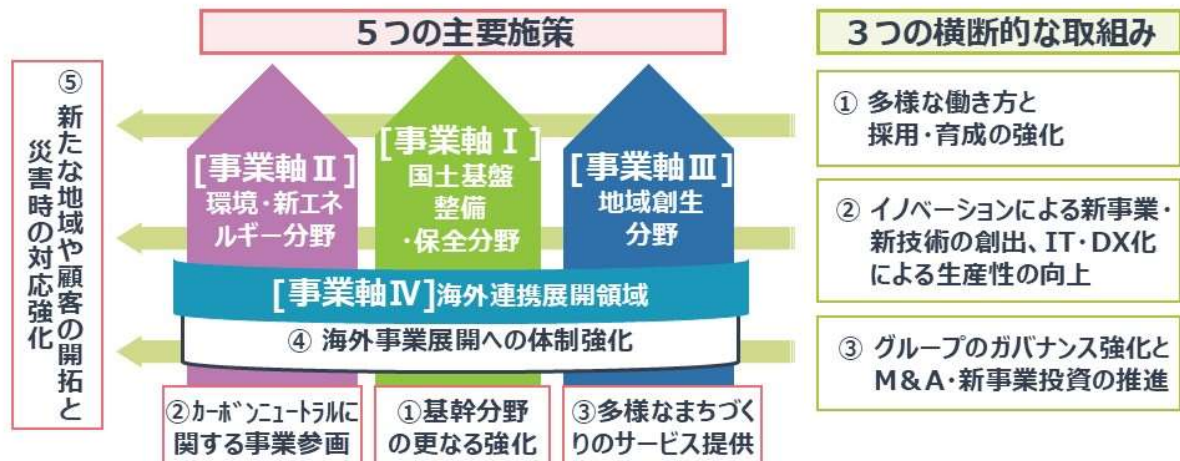
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



【基本方針】

国土基盤整備・保全分野のさらなる強化と環境・新エネルギー分野
及び地域創生分野の新たな事業分野としての確立
事業を支える多様な人材が働きがいを持てる環境づくりを推進



人・夢・技術グループ 事業軸別重点分野

I 国土基盤整備・保全



【重点分野】

- 災害時における迅速な対応や復旧支援および防災機能強化
- 点検業務の効率化・高度化
- 業務効率化に向けて積極的なIT化・DX推進

【受注関連トピックス】

- 令和6年能登半島地震災害の復旧業務の継続的な実施（長大、基礎地盤C）
- 電磁波レーダー、水中ドローンを用いた構造物の点検（長大、長大テック）

II 環境・新エネルギー



【重点分野】

- 環境問題への対応
- 再生可能エネルギー事業の拡大
- 自治体や民間のカーボンニュートラル計画の立案や推進支援

【受注関連トピックス】

- 北海道苫小牧市のCCS事業における土質調査（基礎地盤C）

III 地域創生



【重点分野】

- デマンド交通のサービスの拡大と地域展開や自動運転の導入
- 建築設計とまちづくり事業の推進とこれらの技術・ノウハウを活かしたPPP事業の拡大

【受注関連トピックス】

- オンデマンド交通のシンポジウムを開催「コンビニクル」にLINE予約機能を追加（順風路）
- 北海道大学函館キャンパス新施設設計（長大）

IV 海外連携展開領域



【重点分野】

- 橋梁・鉄道・地盤調査および解析事業の更なる強化
- 新たな事業分野への拡大

【受注関連トピックス】

- バングラディッシュの鉄道専用橋建設事業に参画（長大）
- チャンギ空港第5ターミナルの基礎工事地盤調査、地盤設計（基礎地盤C）

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

1枚目を飛ばしまして、2枚目です。改めて、私たち事業軸1、2、3、海外連携ということで、四つの領域を持っております。

1番は国土基盤整備・保全、これは基幹事業です。それぞれ重点分野、それからトピックスをお示ししておりますので、また後ほどご覧いただければと思います。この後に野村のほうから、今期上半期の事業トピックスを報告させていただきます。

二つ目が環境・新エネルギーで、三つ目、地域創生ということです。この事業軸2と3の軸は今、日本が抱えている社会的なインフラの問題そのものを、私たちは事業軸にしているということでございます。

それから四つ目が海外連携展開領域ということで、これもいろいろ種まきを含めて行っております。この辺りも、またこの後報告させていただきます。

人・夢・技術グループ 新規事業の進捗

空飛ぶクルマ



- ITS/交通分野・建築分野・環境分野など、建設コンサルタントの技術やノウハウを生かし、離発着場の設計や運行ルールづくり・運営事業などに向けて事業領域の拡大へ
- 大阪府より受託「令和6年度空飛ぶクルマ都市型ビジネス化支援事業」の業務の一環で、2024年11月、12月に空飛ぶクルマ離着陸場ビジネスセミナーを開催

量子コンピュータ



- 「デジタルを活用した地域活性化」に向けて 山梨県山梨市、Qテクノロジーと包括連携協定を締結
- 2025年2月14日、Q-STARの「クオンタムシティ推進部会」にて、未来のまちづくり「クオンタムシティ」の実現に向けた自治体・大学・企業との交流イベントを開催

デジタル田園都市



- 政府が推進するデジタル田園都市国家構想の最上位であるType3に選定され北海道更別村でプロジェクトを推進中
- 2024年9月期より長大到スマートシティ事業部を設置
- 宇宙戦略事業への参入するため、BRPH社、CEA社とのMOU締結

水上都市



- 海面利活用や海面上昇のリスクに備え、安全かつ持続可能な生活基盤を提供することを目指す
- 2023年9月 浮体式洋上風力発電に関する特許を取得
- 当社と他3社で、NEDOの「ダブルドーナツ・スパー型浮体式風力発電システムの研究開発」に取り組む

新事業領域は、冒頭に永治が説明しましたので、割愛させていただきますが、空飛ぶクルマ、量子、デジタル田園都市、水上都市がございまして。水上都市は特許の取得努力をしております、ついこの間、欧州特許を取っております。国内では水上都市の需要はないのですが、海外、アジア、

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com



それからヨーロッパなどはこれから水上都市を進めていくので、将来的にそこに出ていきたいという事でございます。

中期経営計画「持続成長プラン2025」の経営指標と進捗

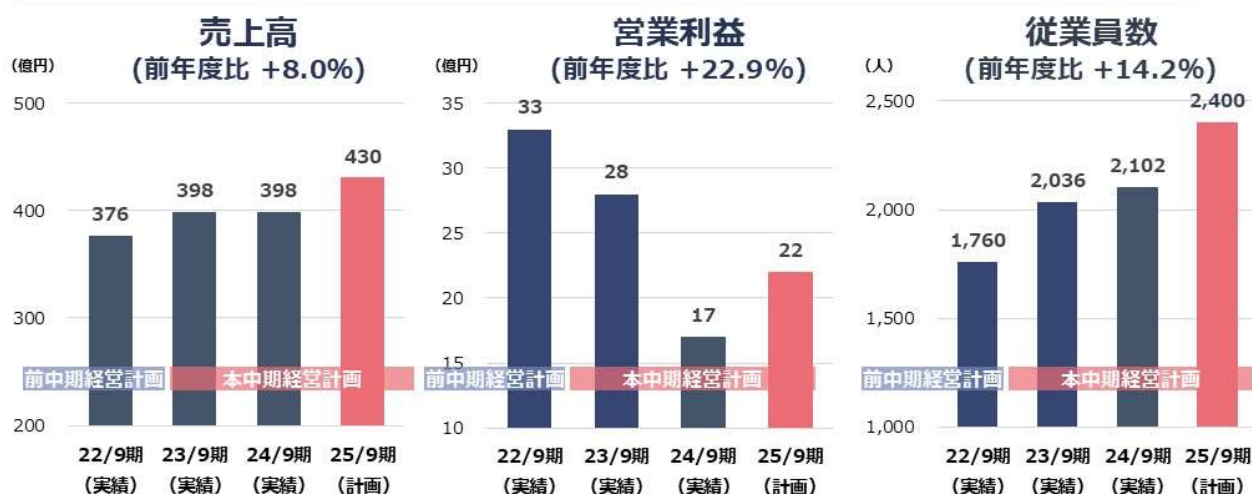
主な経営指標と進捗 ～売上高・営業利益・従業員数～

2025年
指標

430億円

22億円

2,400人



* 2024年11月26日に目標値を変更いたしました。

17

ここでもう一度、現中期計画の数値の状況でございます。売上高 430 億円、営業利益 22 億円、従業員数 2,400 人ということで、このピンクが 25 年 9 月期計画数値でございますが、今のところそこに向けて進んでいるということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



人・夢・技術グループ 顧客別売上高

顧客別売上高 (2025年9月期中間)



※2021年9月期までは「其他官公庁」と「民間」を「其他官公庁・民間」に統一して開示



- 顧客別売上高は、国土交通省、其他官公庁、民間がそれぞれ3割程度、海外が1割程度の売上高比率で推移
- 近年は、国土交通省以外の官公庁や地方自治体にも、積極的に展開
- 海外受注の回復を目指す

18

こちらは、顧客別の売上高で、ご説明したい内容は右にコメントしています。

国土交通省が30%、其他官庁が30%、民間が30%、海外が1割ということでございます。ですので、官の事業が全体の6割を占めているということで、国土強靱化を含めて国の予算はまだまだついておりますので、そういう面ではまだ安定しています。

一方で、将来に備えて、民間をどんどんこれから増やしていくという流れでございます。

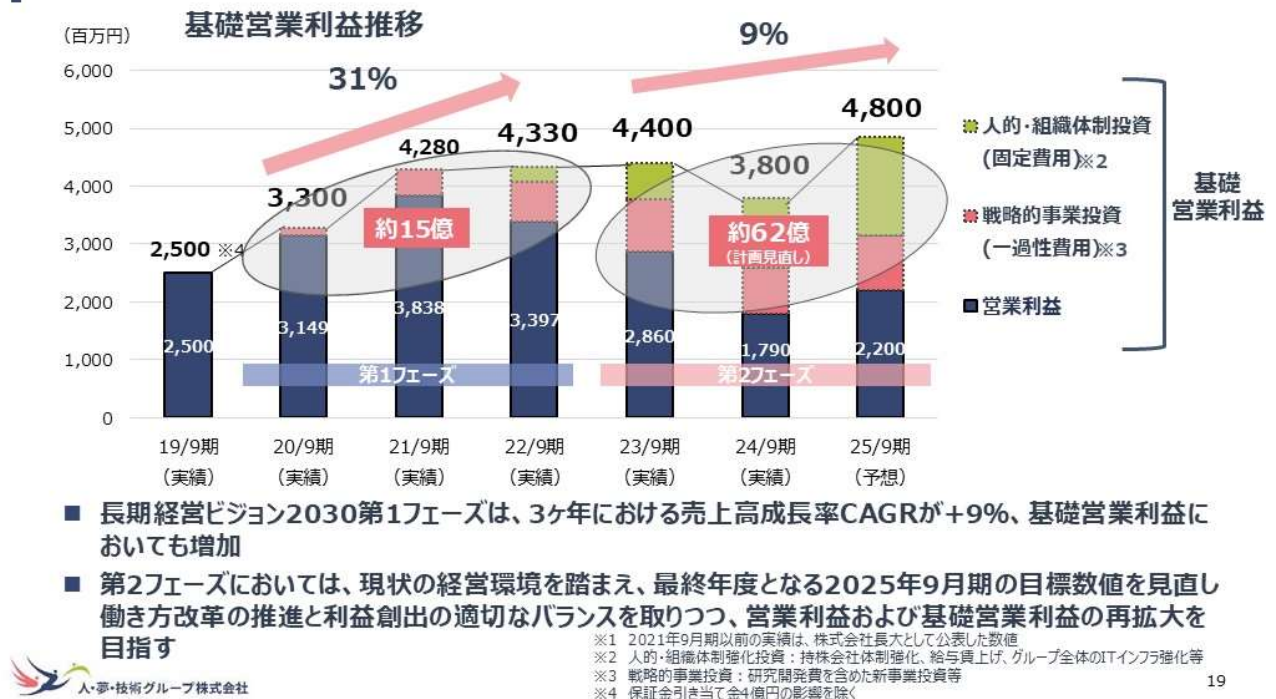
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



中期経営計画「持続成長プラン2025」の成長投資

長期ビジョン2030の実現に向けて、2023年から3年間の先行投資を62億円へ見直し



19

これは第2中計における営業利益の内訳を切り取って見たのですが、左の三つの縦の棒グラフ、これは前第1中計である第1フェーズでございます。この全体の基礎営業利益というもののから、将来に向けた人的投資、戦略事業投資を前中計では3年間で15億円ほど使っておりました。現中計では、多方面にアピールさせてもらっていますが、スタートしたときから3年間で60億円から70億円ぐらいをグループ全体で使おうとしております。

それは将来に向けた新事業であったり、社員への業務負荷軽減や投資ということを計画しております。結果的に営業利益が若干圧縮されますが、ご覧のとおり、グラフの合計となる、それら使った費用を含めた基礎営業利益では、マイナス基調ではないと、ここでは報告、共有させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

企業価値向上に向けた取り組み

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

「長期経営ビジョン2030」「持続成長プラン2025」の着実な実行により利益を創出し、PBR改善目標に向けた方針に沿って施策を実行していく

		中期経営計画 「持続成長プラン2025」 (最終年度：2025年9月期)	「長期経営ビジョン2030」 (最終年度：2031年9月期)	PBRの向上
① 利益 創出	基本的な方針	「成長基盤確立に向けた集中的な投資」と 「株主還元の強化」の両立	「持続的な成長」を通じた 「株主還元のさらなる拡大」	ROEの 向上
	連結売上高	430億円*	600億円	
	連結営業利益	22億円*	50億円	
	ROE	中長期的にROE10%程度またはそれ以上の水準を安定的に実現		
②株主還元の強化		①2031年9月期までの間、1株当たり配当額60円と、 配当性向35%に基づく配当額の高い方を目安として安定的に配当 ②機動的な自社株買い		資本コスト の低減
③IR/SRの強化		①当社グループ事業への理解促進、②サステナビリティ経営のPR		

人・夢・技術グループ株式会社

* 2024年11月26日に目標値を変更いたしました。

20



* 2024年11月26日に目標値を変更いたしました。

20

これはグループとして公表している資本コスト、株価を意識した経営の実現に向けた対応ということで、ROE10%、PBR1 超えを目指して、引き続き対応しているところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



企業価値向上に向けた取り組み（株主還元 ～配当金・配当性向推移～）

継続的に安定的な配当を実施する基本方針に基づき、2025年9月期も前期と同水準となる普通配当60円を予定



株主還元方針

1株当たり配当額60円と配当性向35%に基づく配当額の高い方を目安として、より安定的な配当を行う方針

（長期経営ビジョン最終年となる2031年9月期まで安定的な配当を実施予定）



21

こちらは株主還元です。これも 60 円、もしくは配当性向 35%、高いほうを配当額としており、今現在、25 年 9 月期の配当は 60 円を予想してございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



企業価値向上に向けた取り組み（ガバナンス）

ガバナンスの強化と社内コミュニケーション

新たに設置した「信頼性向上委員会」のもと、不適切会計再発防止策の5項目の多くが運用フェーズ入り。社内コミュニケーションと社員教育を強化する契機とし、信頼回復と企業価値向上へ繋げる

再発防止策

1. トップメッセージの発信
2. 会計ルールの再認識・十分な理解の促進
3. 長年の慣行に対して（組織風土の改善）
4. 不適切会計を行わせない社内手続き・評価システムの見直し
5. 不適切行為に対するチェック機能・体制の強化



長大の説明会の参加者（1月16日・広島支社）
人・夢・技術グループ株式会社

次期中期経営計画へ向け始動

第1回、次期中期経営委員会を開催

- 2025年5月7日、昨今の社会情勢、環境問題、自然災害等の課題や市場、競合他社の動向を踏まえて、次期中期経営計画の主要課題や重点施策等を議論
- 基幹事業の力強い推進、業務領域の拡大と、スピード感を持った新規事業の推進を軸に検討
- 次回以降、拡大会議で議論を深化



第1回次期中計委員会での議論（2025年5月7日）

22

これも冒頭、永治から説明があった項目となりますが、ガバナンスの強化、社内コミュニケーションの辺り、非常に力を入れております。昨年度は不適切会計がございましたので、その再発防止策をこの2Qで取りまとめて、3Q後半から実質的に動き出しているということでございます。

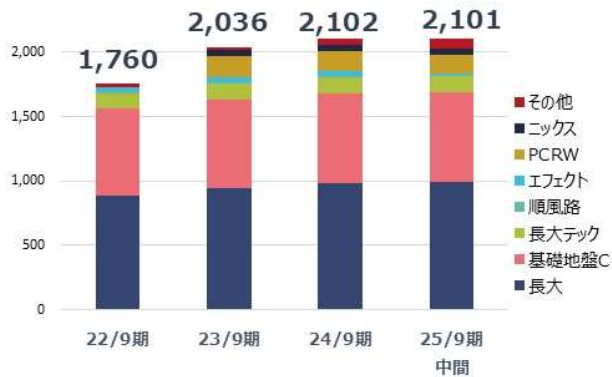
あとはもう一つ、現中期計画は今期が最終年度でございますので、次の第3中計に向けて社内で中計委員会を立ち上げて、これから色々検討していくことになります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

企業価値向上に向けた取り組み（人）

グループ社員数推移



- 25/9期3月末時点の連結社員数は2,101名となり22/9期と比較して600名超の増加。22/9期比119%
- 23/9期の増加は、ピーシーレールウェイコンサルタントをグループ化した影響



技術士資格者数推移



- 技術士合格者数が増加。技術士新規合格者は若手が多く、今後の活躍が期待される
- 技術力の向上、また、公共事業の入札要件になるため、資格取得を推奨
- 資格取得や技術継承のための社内勉強会を積極的に開催

技術士とRCCMと一級建築士の取得者数合計（延べ人数）

技術士：土木専門技術に関する国家資格

RCCM：（一社）建設コンサルタンツ協会が提供する土木専門技術に関する民間資格

23

これは社員数の推移です。現在 2,000 人を超えて、今のところ 2,100 名ぐらいで推移しております。積極的に人を増やして売上を増やそうとしておりますが、今の時代、技術者不足ということもあり、今のところ 2,100 名ぐらいの社員数をキープしております。

技術士資格は 1,000 名を超えたグループであるということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

企業価値向上に向けた取り組み（人）

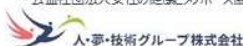
社員のウェルビーイングといきいき働ける環境づくり

- 女性の健康経営®アワード2025で『推進賞』*を受賞。DE&I推進と健康経営に向けた取り組みが評価された
- 2025年1月、「第4期ダイバーシティセミナー」を開催し約300名が参加。感情マネジメント力やコミュニケーション能力の向上に繋がるEQ（感情知性）を学んだ



パネルディスカッション
「男女で考える上手な健康づくりと仕事の仕方」で、元プロマラソンランナーの有森裕子氏と共に上席取締役 加藤聡が登壇
写真提供：公益社団法人女性の健康とメノポーズ協会

*公益社団法人女性の健康とメノポーズ協会主催



気候変動対応

- 英国のNGOであるCDPから2024年の「気候変動」分野において、昨年に引き続き「自社の環境リスクや影響について把握し、行動している」との評価を示す「B-」スコアを獲得
- ESG寄付型「世界が進むチカラになる私募債」を発行。環境、社会課題の改善に向けた取り組みを強化



24

こちらは、社員のウェルビーイングに関する取り組みを一生懸命やっております。アワードで推進賞をいただきました。これはそれほど世の中では騒がれておりませんが、有名な大企業と肩を並べて、賞をいただいております。

あとは気候変動に対する企業としての取り組みもしっかり行っている。CDP からの B-スコア評価をキープしているということでございます。

以上、決算ハイライトを私のほうから説明いたしました。最後に中間期においての事業トピックスを、野村のほうから報告いたします。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

人・夢・技術グループ 2025年9月期上半期 受注関連トピックス

2024年度土木学会デザイン賞 優秀賞受賞



- 長大が計画・設計を実施した「有明早津江川大橋」が土木学会デザイン賞の優秀賞を受賞
- 有明早津江川大橋は、福岡県大川市と佐賀県佐賀市を繋ぐ、橋長854mの橋梁
- 今回の受賞は、地域の景観や周辺環境を考慮した計画、設計に表れた技術力が高く評価された

*「土木学会デザイン賞」は、土木学会デザイン賞は公益社団法人土木学会景観・デザイン委員会が主催する顕彰制度



能登半島地震における災害支援活動に 対して感謝状を授与



- 北陸地整整備局より、令和6年1月の能登半島地震における災害支援活動に対して、長大と基礎地盤コンサルタンツの両社は感謝状を授与された
- 能登半島地震へは、グループ会社の長大と基礎地盤コンサルタンツが積極的に対応
- 長大の複合発酵技術を用いたバイオトイレの無償提供をはじめ、両社は国土交通省や地方自治体からの要請を受けて、災害調査、地質調査、橋梁点検等を担当

26

野村： それでは私の方から、上半期の事業トピックスについてご説明いたします。まず最初に、表彰関係でございます。長大が計画、設計を受注いたしました有明早津江川大橋が、土木学会デザイン賞の優秀賞を受賞しております。

有明早津江川大橋は、福岡県大川市と佐賀県佐賀市をつなぐ橋梁でございます。今回の受賞は地域の景観や周辺環境を考慮いたしました計画、設計に表れた技術力が高く評価されたものでございます。この左側が、その早津江川大橋でございます。

それから右側、能登半島地震における災害支援活動に対しまして、感謝状を授与されました。国土交通省北陸地方整備局より、令和6年1月の能登半島地震における災害支援活動に対しまして、長大と基礎地盤コンサルタンツの両社に対しまして、感謝状を授与されております。

能登半島地震に関しましては、グループ会社の長大と基礎地盤が積極的に対応を行っております。長大の復興技術を用いましたバイオトイレの無償提供をはじめといたしまして、両社は国土交通省や地方自治体から災害調査、地質調査、橋梁点検等の要請を受けまして、各種調査・点検を実施しております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

人・夢・技術グループ 2025年9月期上半期の主な受注業務

I 国土基盤整備・保全

- ① 電磁波レーダー、水中ドローンを用いた構造物の点検（長大テック、長大）
- ② 令和6年能登半島地震の災害復旧業務の継続的な実施（長大、基礎地盤コンサルタンツ）
- ③ JR山陰本線地すべり被害の復旧活動（基礎地盤コンサルタンツ）
- ④ CIMを用いた砂防堰堤の詳細設計（ピーシーレールウェイコンサルタント）

II 環境・新エネルギー

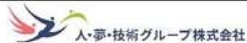
- ⑤ 北海道苫小牧市のCCS事業における土質調査（基礎地盤コンサルタンツ）
- ⑥ カーボンニュートラルの達成に向けた再生可能エネルギー事業に伴う調査（長大）

III 地域創生

- ⑦ 地域と未来をつなぐ、官民連携の道の駅「たのうらら」事業のマネジメント（長大）
- ⑧ 地域の財政を考慮し人々に安全・安心を提供（順風路、長大）
- ⑨ 宇宙戦略事業に参入するため、BRPH社、CEA社とのMOU締結（長大）

IV 海外連携展開領域/新事業/IT化・DX推進

- ⑩ 海外でも高い技術力を発揮し、現地での課題解決に貢献（長大、基礎地盤コンサルタンツ）
- ⑪ IT、先端技術で地域の活性化や企業の業務効率化に貢献（長大）



27

次に上半期に受注いたしました主な業務を11件、ご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



[事業軸Ⅰ 国土基盤整備・保全分野] 基幹事業

① 電磁波レーダー、水中ドローンを用いた構造物の点検（長大テック、長大）



電磁波レーダーを用いたコンクリート構造物内部の点検(長大テック)



水中ドローンを用いた水中涵渠内の調査(長大)

- 長大テックは、近接目視や打音調査では確認できなかったコンクリート構造物内部の不具合を電磁波レーダーで調査。目視点検による不可視部分を可視化することで判定精度を向上させた
- 長大は、水中ドローンを使い水中の状況を調査。劣化がある場合は具体的な対応策を道路管理者に提案。点検の効率化と安全性の確保に取り組む



28

まず事業軸Ⅰ、基幹事業でございます。電磁波レーダー、それから水中ドローンを用いました構造物の点検でございます。

左側は、長大テックが行っております電磁波レーダーを用いたコンクリート構造内部の点検でございます。従来、近接目視や打音調査で行ってございましたが、これらでは確認できなかったコンクリート構造物の内部構造の不具合を、電磁波レーダーで調査しております。

それから右側は、長大が行っております水中ドローンを用いた点検でございます。従来、ダイバー等で行ってございましたが、これを水中ドローンで行うことによって、劣化がある場合は具体的な対応策を道路管理者に提案し、点検の効率化と安全性の確保に取り組んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

② 令和 6 年能登半島地震災害の復旧業務の継続的な実施 (長大、基礎地盤コンサルタンツ)



能登半島豪雨の被災箇所対応(長大)

- 基礎地盤コンサルタンツは、令和 6 年能登半島地震で被災した国道 249 号のうち、地盤が隆起した海岸沿いの橋梁を対象にしたボーリング調査と、トンネル坑口付近で発生した地すべりの各種調査を実施
- 長大は、令和 6 年 9 月能登半島豪雨における被災箇所の変状調査と二次災害の可能性の有無を確認



29

次に、災害復旧、防災・減災分野でございます。令和 6 年の能登半島地震災害の復旧業務に関しまして、継続的な対応を長大、基礎地盤コンサルタンツで行っております。

こちらにあります写真でございますが、基礎地盤コンサルタンツは令和 6 年の能登半島地震で被災しました国道 249 号のうち、地盤が隆起いたしました海岸沿いの橋梁を対象といたしましたボーリング調査、およびトンネル坑口付近で発生しました地滑りの各種調査を行っております。

長大はその後発生いたしました、9 月の能登半島豪雨によります被災箇所の変状調査と、二次災害の可能性の有無を確認しております。

サポート

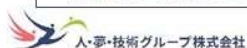
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

③ JR山陰本線地すべり被害の復旧活動（基礎地盤コンサルタンツ）



大雨による地すべりで被災した線路を調査(基礎地盤コンサルタンツ)

- 令和6年11月の大雨によりJR山陰本線石見津田・益田駅間で地すべりが発生
- 基礎地盤コンサルタンツは災害発生後、災害状況を素早く把握、設計・施工に必要な調査計画を立案。調査結果に基づき災害発生のメカニズムを解明し、地すべり対策設計を実施



30

次は JR 山陰本線地すべり被害の復旧活動でございます。令和 6 年 11 月の大雨によりまして、JR 山陰本線石見津田、益田駅間で地滑りが発生いたしました。基礎地盤コンサルタンツは、災害が発生した後、災害状況を素早く把握いたしまして、設計、施工に必要な調査計画を立案いたしました。

またこの調査結果に基づき、災害発生のメカニズムを解明いたしまして、地滑り対策設計を実施しております。

なおこの活動によりまして、JR 西日本より表彰されていることを申し添えておきます。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

④ CIMを用いた砂防堰堤の詳細設計（ピーシーレールウェイコンサルタント）



CIMで作成した砂防堰堤の全景図(ピーシーレールウェイコンサルタント)

- ピーシーレールウェイコンサルタントは、CIMを活用し、砂防堰堤（さぼうえんてい）の詳細設計を担当。3次元モデルの活用により完成形状をイメージしやすくなり、事業内容への理解促進や円滑な合意形成が可能に



31

次に基幹事業、ピーシーレールウェイコンサルタントでございます。ピーシーレールウェイコンサルタントは、CIM を活用いたしまして、砂防堰堤の詳細設計を担当いたしました。この図にありますように、3次元モデルの活用によりまして、完成形状をイメージしやすくなります。事業内容の理解促進や、円滑な合意形成が可能となりました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

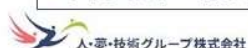
[事業軸Ⅱ 環境・新エネルギー分野] 再生可能エネルギー事業

⑤ 北海道苫小牧市のCCS事業における土質調査（基礎地盤コンサルタンツ）



地質的なリスク評価のための土質調査（基礎地盤コンサルタンツ）

- 基礎地盤コンサルタンツは、CCS事業*において、基礎地盤の地質成層、強度および地下水位の調査を行い、設計施工時の地質的なリスクを評価
- *CCS：Carbon dioxide Capture and Storage（二酸化炭素回収・貯留）
- 苫小牧市は経済産業省からCCS特定区域に指定され、貯留層の存在を調べる試掘調査が進行



32

次は事業軸Ⅱの再生可能エネルギー事業でございます。北海道苫小牧市のCCS事業において、土質調査を基礎地盤コンサルタンツが実施しております。CCS事業と申しますのは、二酸化炭素を回収いたしまして、それを地下に貯留、封じ込めを行う事業でございます。このCCS事業におきまして、基礎地盤は、地層の構成、強度、および地下水の調査を行い、設計、施工時の地質的なリスクの評価を行っております。

なお、苫小牧市は経済産業省からCCSの特定区域に指定されまして、貯留層の存在を調べる試掘調査が進行中でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



[事業軸Ⅱ 環境・新エネルギー分野] 再生可能エネルギー事業

⑥ カーボンニュートラルの達成に向けた再生可能エネルギー事業に伴う調査（長大）



太陽光発電施設の建設に伴う環境影響評価(長大)

- 長大は、北海道地方における太陽光発電事業による環境への影響について予測・評価
- 広大な土地と年間を通じて比較的安定した日照量を活かし、豊富な自然資源を活用した再生可能エネルギーの導入を支援。新規太陽光発電所建設の環境影響評価を担当



33

続きまして、カーボンニュートラルの達成に向けた、再生可能エネルギー事業に伴う調査を長大で行っております。長大は、北海道地方における太陽光発電事業による環境影響評価につきまして、予測・評価を行っております。広大な土地と年間を通じて比較的安定した日照量を活かし、豊富な自然資源を活用した再生可能エネルギーの導入を支援しています。新規の太陽光発電所建設の環境影響評価を担当いたしました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



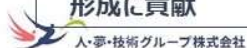
[事業軸Ⅲ 地域創生分野] オンデマンド交通事業、建築設計事業

⑦ 地域と未来をつなぐ、官民連携の道の駅「たのうらら」事業のマネジメント（長大）



道の駅 たのうらら（長大）

- 長大は、大分市の魅力を「体感・発信・つなぐ」拠点として、地元企業が一体となって運営する道の駅「たのうらら」の事業全体のマネジメントを担う
- 本PPP事業は事業期間を通じて業務モニタリング等を行う。たのうららが2024年7月7日に開業後も、地域の魅力やニーズを反映した飲食・物販、交流スペースなど多様な機能を備えた施設づくりを支援
- 地域の交流拠点・防災拠点としてのさらなる役割の強化と地域の生活基盤の向上を目指す。官民連携によるデジタル技術の活用や環境配慮を取り入れた新たなビジネスモデルを導入し、持続可能な経済の形成に貢献



34

次は事業軸Ⅲ、地域創生分野でございます。地域と未来をつなぐ官民連携の道の駅たのうらら事業のマネジメントを長大が行っております。長大は、大分市の魅力を体感・発信・つなぐ拠点といたしまして、地元企業が一体となって運営する道の駅、たのうららの事業全体のマネジメントを担っております。

本 PPP 事業は、事業期間を通じて業務モニタリング等を行っております。たのうららが 2024 年 7 月 7 日に開業した後も、地域の魅力やニーズを反映した飲食、物販、交流スペースなど、多様な機能を備えた施設づくりを支援しております。

地域の交流拠点・防災拠点として、さらなる役割の強化と地域の生活基盤の向上を目指します。官民連携によるデジタル技術の活用、環境配慮を取り入れた新たなビジネスモデルの導入、持続可能な経済の形成に貢献しております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

[事業軸Ⅲ 地域創生分野] オンデマンド交通事業、建築設計事業

⑧ 地域の財政を考慮し人々に安全・安心を提供（順風路、長大）



栃木県さくら市AIオンデマンド交通システム(順風路)



完成した上富良野町立病院(長大)

- 順風路は、栃木県さくら市のDXをAIオンデマンド交通システム「コンビニクル」で支援。LINEの予約機能も初めて実装し、さらなる利便性の向上に貢献
- 長大は、上富良野町立病院の改築工事の基本構想から工事監理までを担当。地域医療の要となる病院を設計し、地域住民に安全・安心を提供



35

次に、オンデマンド交通事業、建築設計事業でございます。左側は順風路が行っております、栃木県さくら市のDXをAIオンデマンド交通システム、コンビニクルで支援したものでございます。LINEの予約機能も初めて実装いたしまして、さらなる利便性の向上に貢献してまいります。

右側が、長大が行っております、上富良野町立病院の改築工事の基本構想から工事監理までを行ったものでございます。地域医療の要となる病院を設計し、地域住民に安全・安心を提供しております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[事業軸Ⅲ 地域創生分野] 官民連携による地域創生

⑨ 宇宙戦略事業に参入するため、BRPH社およびCEA社とのMOU締結（長大）



MOUに関するご説明のため訪問（長大）

左から 野本社長、BRPH社 Vice President Steve Uyod、永治会長、CEA社 Vice President Todd Tindall、チェン ケビン(今井事業部長代理)、サム田剛生

- 長大は、世界の30カ国超の国の宇宙港に関わるプロジェクト設計やエンジニアリングを行うBRPH社*、および革命的なスペーステックに投資を行っているCEA社*とMOUを締結
*BRPH社:BRPH Architects Engineers, INC、CEA社:CEA Atlantic Advisors, LLC
- BRPH社およびCEA社との連携により、国内の宇宙港整備とそれに伴う地方自治体のインフラ整備、産業育成、観光振興等に関わるコンサルタント業務、事業実施による地域創生を目指す



36

次に、官民連携による地域創生でございます。宇宙戦略事業に参入するため、長大はBRPH社、およびCEA社とMOUを締結しております。世界の30カ国超の国の宇宙港にかかわるプロジェクト設計や、エンジニアリングを行うBRPH社、および革新的なスペーステックに投資を行っておりますCEA社とMOUを締結いたしました。

この両社との連携によりまして、国内の宇宙港整備と、それに伴う地方自治体のインフラ整備、産業の育成、観光振興にかかわるコンサルタント業務、事業実施による地域創生を目指します。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



[事業軸Ⅳ 海外連携展開領域]

⑩ 海外でも高い技術力を発揮し、現地での課題解決に貢献 (長大、基礎地盤コンサルタンツ)



バングラディシュの鉄道専用橋建設事業に参画(長大)



チャンギ空港第5ターミナルの基礎工事地盤調査、地盤設計(基礎地盤C)

- 長大は、2017年から長年にわたりバングラディシュの鉄道専用橋建設事業に参画。日本の高度な技術で、高品質、低メンテナンスの鉄道インフラを提供。大気汚染等の環境問題の改善にも大きく貢献
- 基礎地盤コンサルタンツは、シンガポールのチャンギ空港第5ターミナルの建設プロジェクトで、安全かつ経済的な基礎工事の実現を目指し、基礎工事地盤調査、地盤設計を担当



37

事業軸Ⅳ、海外連携展開領域でございます。左側は、2017年から長年にわたりまして長大が参画しております、バングラディシュの鉄道専用橋建設事業でございます。日本の高度な技術力で、高品質、低メンテナンスの鉄道インフラを提供し、大気汚染等の環境問題の改善にも大きく貢献しております。

右側は、基礎地盤コンサルタンツが行っております、チャンギ空港第5ターミナルの基礎工事でございます。基礎地盤コンサルタンツは、この第5ターミナルの建築プロジェクトにおきまして、安全かつ経済的な基礎工事の実現を目指して、基礎工事にかかわる地盤調査、および地盤の設計を担当しております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

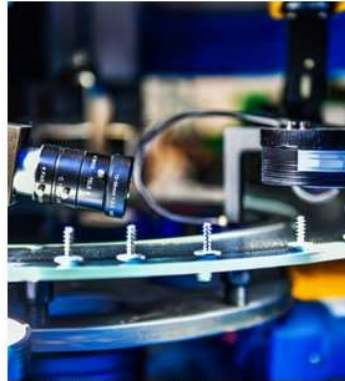


新事業/IT化・DX推進

⑪ IT、先端技術で地域の活性化や企業の業務効率化に貢献（長大、エフェクト、ニックス）



山梨市と「デジタルを活用した地域活性化に関する包括連携」を締結(長大)

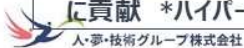


「異常検知アルゴリズム」の研究開発(エフェクト)



最先端技術で経費精算業務を自動化(ニックス)

- 長大は、持続可能なまちづくりに向けて、住民サービスの向上にデジタル技術を活用した地域の課題解決や活性化に貢献。2024年12月、山梨市と「デジタルを活用した地域活性化に関する包括連携」を締結
- エフェクトは、製造業の現場の無人化、省人化を目的に、九州産業大学と共同で「異常検知アルゴリズム」を研究開発
- ニックスは、ハイパーオートメーション*を活用し、小売業者の経費精算業務を自動化。企業の業務効率化に貢献 *ハイパーオートメーション:あらゆる業務の自動化を目的とした先進技術



38

次に、新事業、IT化、DX推進でございます。一番左は、長大が持続可能なまちづくりに向けて、住民サービスの向上とデジタル技術を活用した地域の課題解決や活性化に貢献するために、2024年12月、山梨市とデジタルを活用した地域活性化に関する包括連携を締結したものでございます。

中央は、エフェクトによるものでございます。エフェクトは、製造業の現場の無人化、省人化を目的として、九州産業大学と共同で異常検知アルゴリズムを研究開発しております。

右側のニックスは、ハイパーオートメーションを活用し、小売業の経費精算業務を自動化しました。企業の業務効率化に貢献しております。

以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

質疑応答

司会 [M]：ありがとうございました。それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。

会場にお越しの方でご質問のある方は、挙手をお願いいたします。質問の際に会社名、氏名を名乗られますとそのまま公開されますので、匿名を希望される場合は、ご留意をお願いいたします。

サカグチ [Q]：工業新聞のサカグチと申します。この資料の 18 ページのところの顧客別売上高のところで、現在国交省をはじめとした官公庁需要が多く 6 割くらいを占めておられますけれども、今後に備えて、今後は民間も増やしていくというお話がありました。その民間を増やしていくところで、将来的な割合としての目標のようなものはあるのでしょうか、というのが一つです。あと、ここの三つ目のところに掲げられている、海外受注の回復を目指すというのがありますが、これは具体的にどのようなことをされていくのでしょうか。

塩釜 [A]：ご質問、ありがとうございます。まず 1 点目、民間に対して伸ばしていく、その目標値があるのかということでございますが、公共事業がいつまでも安定的に伸び続けていくことは限度があり、民間で伸ばしていくのが、弊社グループだけではなく、建コン業界全体、建設業界全体が考えていることなのかなと思っております。

そのときに目標値はといいますと、次期中計、もしくは長期計画の中でざっくりとしたものはありますが、例えば人を割いて、どれぐらいの時間をかけてというところまで、はっきりとした数値の公表は控えさせていただきます。今現在 30%。当然これが将来的には 40%、50%と、全体的に増えていくのかなと。そのような方向で考えております。

それから 2 点目、海外の回復ということですが、これは回復といういい方は、弊社グループの数値をもっと伸ばしていくことを意味します。同時に市場そのものが、今まで私たちが目指してきた JICA 案件がどんどん少なくなってきましたので、やはり民間を含めた、もしくは現地政府を含めた市場をどんどん展開していきたいという意味で、回復という言葉を使わせていただきました。

今、私たちグループ、総合コンサルは、地面の上から下まで、それから IT を含めてインフラで売っていくメニューがたくさんあるのですが、これからもっともっと、メニューを拡げていきたいということでございます。以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

司会 [M]：ありがとうございました。まだほかに会場からご質問のある方、挙手をお願いいたします。

マルカワ [Q]：お世話になります。建通新聞のマルカワと申します。本日はありがとうございました。2点、伺わせていただきたいと思います。

1点目が、量子コンピューターの新規事業に関連して、量子教育やデータセンター事業の受注をされているというお話でしたけれども、もう少し詳細に教えていただきたいのが1点目です。

2点目が、途中で複合発酵技術のお話もされていたかと思うのですが、そうした人・夢・技術が持っているさまざまな技術、民間の事業者と協働しながらいろんなところに展開していくのが、先ほどのご質問でもありましたけれども、民間の売上を上げていくに際しては重要になるのかなと思っています。

そういった民間事業者との協働であるとか、今後の展望など、もしお考えがありましたら教えてください。よろしくお願いいたします。

永治 [A]：まず量子の世界の話ですけれども、現在、いろんな研究をやっていますと申し上げました。主には自治体から、量子コンピュータを使った将来の町づくりに活用したいと、多く引合いがあります。量子人材を育成して、その町の活性化に貢献しようというお話がいくつかあります。

それからもう一つ、着実に伸ばしていっているのは、GPUと呼んでいますけれども、そういったものをデータセンター化して、コンパクトなデータセンターをつくって、いろんな市町村に展開しているところです。

それから量子教育は、Q-STARという経産省傘下の社団法人の中でも、一つ重要な課題として挙がっています。それは、どのように進めていくかも含めて、長大がQ-STARの中でリードをとっている状況です。先ほどのクオantumシティの中の一部の機能ではありますが、また別途、そういった教育制度をつくっていく必要はあるだろうと取り組んでいるところです。クオantumとしては、そのようなところです。

それから民間連携ということでは、今のクオantumシティの話もそうですし、それから自動運転、空飛ぶクルマ、いずれもいわゆるハードウェアが必ず必要になります。クオantumでいえばGPUですとか、本当の意味の量子コンピュータは、実は日本にはまだありませんが、いわゆる量子アニーリングという技術を使うコンピュータができています。

それを我々は現在、データセンター化して、コンパクトなデータセンターとして売り出しています。本来の意味の量子コンピュータとは少し違いますが、我々はコンピュータを作るわけではない

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ので、利用技術をどこに持っていくのかが重要になります。それは、我々、地域の住民の方々と普段接している立場からすると、地域のニーズがよく分かるということで大変重宝がられていますし、クオインタムの Q-STAR という社団法人の中でも部会を立ち上げて、どういうものにしたら地域のニーズに適した、まちづくりに繋がるものになるのかを長大に教えていただきたいという意見をいただく位の勢いで進めています。

先ほどの空飛ぶクルマについても、機体そのものを我々は作りません。ですから、当社は機体をどの様に使えばいいのか、あるいは基地、いわゆる離発着場にはどのような性能が必要なのかというコンサルの観点を持って、民間の開発業者と一緒に進めていきます。

それから自動運転も車は作りませんから、どういう機能があればいいのか、どういふ安全性能があればいいのか。そういったことも民間の企業と協働が必要になってきます。非常に多くの部分で民間企業との連携が必要になってくると考えております。

ということで、先ほど塩釜が申しましたように、民間の売上高を 40%に伸ばす、50%に伸ばすという部分も、必然的にそうなっていくのだろうと考えております。多分、協働なしに、自社だけでなんとかしようというのは、もうおそらく無理な時代です。そのように考えております。

司会 [M]：ありがとうございます。まだお時間がございますので、会場のほうからご質問がございましたら、挙手のほうをお願いいたします。

アベ [Q]：本日はありがとうございます。建設通信新聞社のアベと申します。質問が 4 点ほどあるので、一つずつまいります。

まず 1 点目ですけれども、基幹事業と仰っておられた国土基盤整備と保全の分野での、受注の下期以降の見通しと、その手ごたえについてが 1 点目の質問です。

2 点目の質問が、先ほど投資、かなり積極的に投資されていると仰っていた中で、利益率を高めるために何か新しく始めることですか、利益率を高めるための取り組みがあれば教えていただきたいです。

3 点目が地域事業のところになってくと思うのですが、スマートシティや空飛ぶクルマ、あとは先ほど水上都市の事業の現状と収益化に向けた見通しがあれば、教えていただきたいです。

最後 4 点目ですけれども、現在の成長投資に対するお考えがあれば教えていただきたいです。

以上 4 点、お願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

野本 [A]：1点目の下期の受注の見通しについてです。前々期は、受注が非常に悪かったこともあり、前期の売上が伸びませんでした。前期は受注が順調に伸びまして、今期もそれを上回るような受注ができております。

下期も受注にとにかく力を入れております。の4月から6月の受注は今期の売上に反映されるので、そこに取りこぼしがないようにしっかりとやっていこうということで、現在、全社を挙げて取り組んでいるところです。おそらく前期を上回る受注になるので、今期の売上の見通しも、前期に近いところまで見通しが立っているのかなと思っております。

塩釜 [A]：質問2点目、積極的な投資を行っている一方で、利益率を上げるための新しい施策はないのかということについてです。これは新しい何かというよりも、私たちは利益率を上げるために継続的、恒常的に取り組んでおります。

一つは効率化でございます。特にIT、DXを使って効率化を進めていながら、収益化、利益率を上げていくということ。それともう一つは総合コンサルとして、領域を広げていくことです。利益率が悪いものを良いもので補うとか、そもそも収益を高めていくために事業領域を広げる。そのようなことを総合的に考えて、実行しているところでございます。

3点目は新規事業、水上都市含めて収益化がどうなるのかについて。水上都市に関しましては、特許を取って、これから海外でやっていこうという段階です。まだまだ明確にはなっていませんが、将来的には、アジア、それからヨーロッパ含めて、そういったニーズがあると考えております。現に、オランダのコンサルや事業会社と提携しながら事業化していこうとしております。

そして冒頭で永治が説明したような空飛ぶクルマ、量子コンピュータについては、現状、事業は実際に少しずつ受注として上がってきてはおります。具体的には量子コンピュータ事業は研究開発を進めながら、また、億単位のNEDOの研究開発業務を受注しながら、様々な企業と連携し、JVを組んで実行しているところでございます。

最後の4点目、成長投資の現状についてのご質問に対しては、月並みな言い方にはなりますが、成長投資ということでいろんな新しい事業について、弊社は冒頭で説明した通り実行しております。また、グループとして基幹事業であるコンサルティング事業の領域を更に広げていく所存です。

私たちは道路に強い、地盤に強いグループですけれども、まだまだ水であったり都市であったり、同じ公共事業でも、私たちが参入できる領域はまだまだあるであろうと考えておりますので、多方面に広げていく。それを新事業とともに、成長投資として考えて参ります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

司会 [M]：ありがとうございます。それでは続きまして、Zoom のほうからも 1 点、質問がございますので、読み上げさせていただきます。Zoom からのご質問に関しましては匿名となります。

質問者 [Q]：利益率の低下の理由として、外注費が増加しているという説明がありましたが、外注費について、今後、どのように対応することをお考えでしょうか。

話者 [A]：Zoom を通じてのご質問をありがとうございます。仰るとおり、外注費については気になるかと思います。今後、長い目で見ると、基本的には外注費は下げていきたいとかがえており、委託費を下げていく方針です。

現在は、一時的に外注費が上がっていることにつきましては、社員の負荷低減であったり、受注を新たな領域へ広げていくためには、自社技術だけではなく、様々な協力会社の技術が必要であるため、一時的な現象でございます。

それに対して、具体的に今後は下げていく方向でございます。具体的に何パーセント、来期どれぐらいという、数値の公表は差し控えさせていただきますが、今後、中期計画検討委員会の中で、具体的な数値とその手法については、これまで同様に内部で検討して進めてまいります。

来期以降、次期中計以降、長期計画達成に向けて外注費を下げていくのは、大きな課題であると認識しております。

司会 [M]：ありがとうございます。そろそろお時間もまいりましたので、この辺りで質疑応答を終わらせていただきます。

それではお時間になりましたので、以上をもちまして人・夢・技術グループ株式会社、2025 年 9 月期第 2 四半期決算説明会を終了いたします。

なお冒頭でも申し上げましたが、アンケートへのご協力をお願いいたします。会場にお越しの方は会場出入り口にて、アンケートを回収させていただきます。Zoom でご参加の方はこの後、画面が切り替わり、アンケート画面が表示されます。

ご質問、個別面談のお申込みにつきましては、本日のご説明資料の最後のページに記載されております電話番号、もしくはメールアドレスにご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。

それでは、これにて閉会いたします。本日はお忙しいところお越しいただき、またご視聴いただき、誠にありがとうございました。

[了]

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com